

青森県青森市の取組み －ヒアリング調査結果の概要－

都市自治体における地域公共交通のあり方に関する研究会
日本都市センター 石田雄人



公益財団法人

日本都市センター

ヒアリング調査について

○実施日

平成26年11月7日(金)

○調査先

青森市都市整備部都市政策課

○調査者

板谷委員(運輸調査局情報センター主任研究員)
事務局(日本都市センター)



<JR青森駅前の様子>



<JR青森駅前バスターミナルの様子>



<青森市役所柳川庁舎の外観>



公益財団法人

日本都市センター

青森県青森市の概要①

○人口(世帯数)¹

296,293人(136,612世帯)

○面積²

824.62平方キロメートル

○一般会計³

{ 歳入1,349億44百万円
 歳出1,329億46百万円

○都市制度

中核市(平成18年10月1日移行)

○合併の経緯(平成以降)

・平成17年4月1日
 青森市、南津軽郡浪岡町による新設合併



<青森県における青森市の位置>

出典: 青森市HP

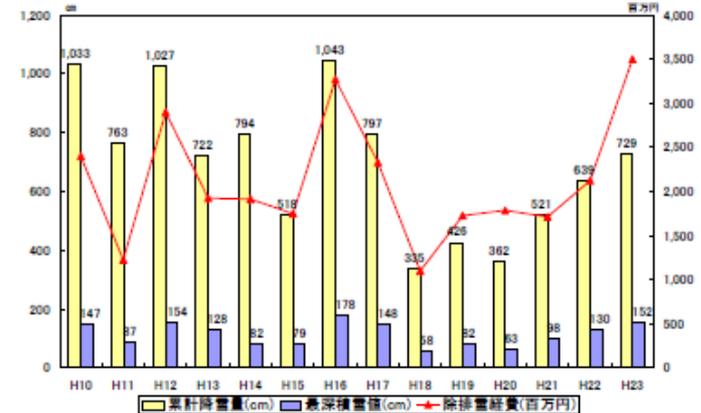
1 青森市「青森市住民基本台帳人口(男女別)及び世帯数」(平成26年10月1日)
 2 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成25年10月1日)
 3 青森県「平成25年度青森市一般会計・特別会計歳入歳出決算書」



青森県青森市の概要②

○都市の特徴

- ・世界有数の豪雪都市
⇒年間の累計降雪量は約300～1,000cm
⇒除排雪に毎年20億程度を要する
- ・都道府県庁所在地で唯一全域が特別豪雪地帯に指定
- ・雪の影響で交通環境が悪化
⇒積雪・除雪により、車線や幅員の減少し渋滞を招く
⇒交通事故の原因になる場合もある



＜青森市の最深積雪深・累計降雪量と除排雪経費の推移＞

出典：青森市提供資料



＜青森市内を走る国道4号線の様子 左：春～秋期 右：積雪期＞

出典：青森市提供資料



＜除雪により幅員が狭くなった道路＞

出典：青森市提供資料



公益財団法人

日本都市センター

公共交通の現状①

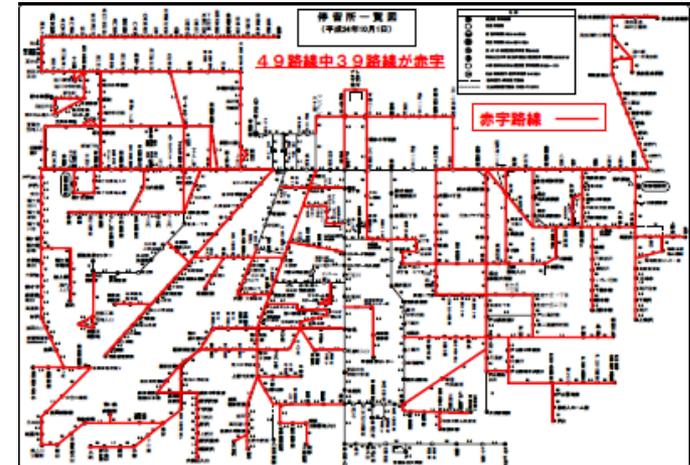
○市内を運行する公共交通

[バス]

- ・市営バス(青森市交通局;36路線)
- ・市民バス(13路線)
- ・JRバス東北
- ・弘南バス

[鉄道]

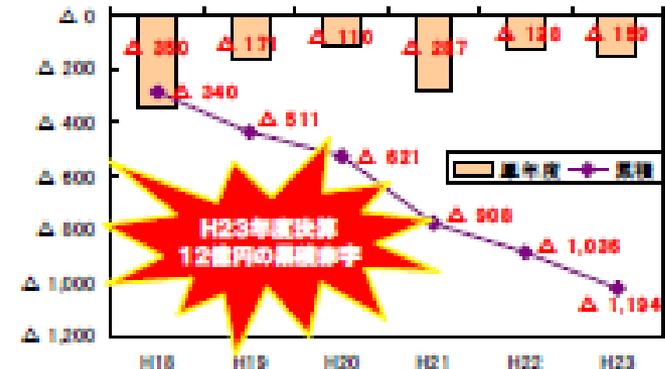
- ・JR東日本(東北新幹線、津軽海峡線、奥羽本線、津軽線)
- ・青い森鉄道(旧JR東北本線)



＜青森市営バス路線図と赤字路線の様子＞
出典: 青森市提供資料

○路線バスの状況

- ・利用者は減少傾向
⇒昭和44年頃をピークに7割程度の減少
- ・赤字経営
⇒49路線中39路線が赤字(平成24年度時点)
⇒一般会計から約7億円/年の繰り出しても赤字が続く
⇒累積欠損金は約16億円⁴



＜青森市営バスの経常収支の推移＞
出典: 青森市提供資料

4 平成25年度決算



公益財団法人

日本都市センター

公共交通の現状②

○充実したバス路線網

- ・バス路線による公共交通利用圏域⁵は人口割合で約96%を占める
- ⇒鉄道と合わせて97%
- ⇒残る3%は道路が狭隘でバスが運行できない地区がほとんど

○鉄道路線網

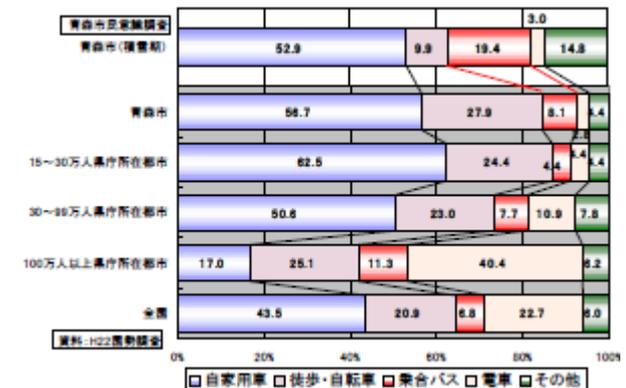
- ・都市内交通として利便性向上対策が急務
- ⇒市街化区域内には青森駅と東青森駅
- ⇒青森駅と東青森駅は5.8km離れている

○路線バスは積雪期の重要な移動手段

- ・他都市と同様に自家用自動車へ依存する
- ・積雪期になると、通勤・通学におけるバスの交通分担率が高まる
- ⇒通常期:8.1% → 積雪期:19.4%
- ⇒自家用車や徒歩自転車からの転換である



＜青森市の公共交通利用可能圏域の様子＞
出典：青森市提供資料



＜青森市の通勤通学時主要交通分担率＞
出典：青森市提供資料

5 公共交通を利用するために、駅やバス停まで歩いていくことができる地域。バス停から半径500m、または、鉄道駅から半径1Kmの距離。



青森市のまちづくり①

○都市計画マスタープラン(平成11年6月策定)

- ・20年後の青森市の将来の都市像として目指すべき方向性を示す
⇒雪に強い、高齢・福祉社会への対応、環境調和型、災害に強い 等

○基本理念

- ・コンパクトシティの形成

○都市構造の基本的考え方

- ・「無秩序な市街地の拡大抑制」と「街なかの再生(中心市街地の活性化)」
⇒3区分のエリアの特性に応じた土地利用の配置方針

- | | | |
|---|----------|---|
| } | インナー・・・ | 都市整備を重点的に行い、市街地の再構築を進め、集約化する
(約2,000ha) |
| | ミッド・・・・・ | 低層低密度・戸建て住宅主体の居住エリアとして、良好な居住環境の整備・充実を図る
(約3,000ha) |
| | アウター・・・ | 農地や周辺の自然を保全し、市街地の拡大を抑制する
(約6,000ha) |



<都市構造に関する3区分の配置イメージ>

出典:青森市「青森市総合都市交通戦略」



公益財団法人

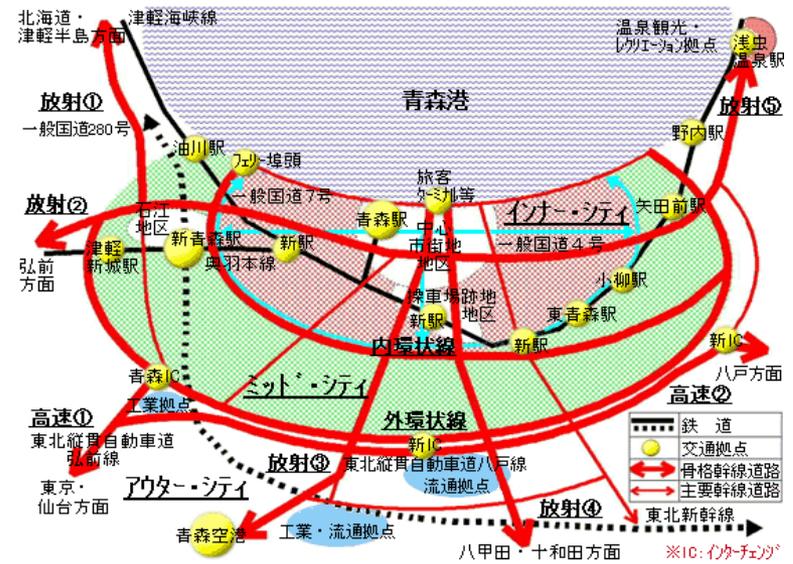
日本都市センター

青森市のまちづくり②

○エリア別の交通体系に関する整備方針

- ・自家用自動車に過度に依存することのないコンパクトシティの形成を図る交通体系の確立

- インナー・・・徒歩・公共交通による移動を支援する
 - ミッド・・・・公共交通による移動を支援する
 - アウター・・・公共交通と自家用自動車による交通をバランスさせる



<交通体系に関する整備方針図>

出典：青森市「都市計画マスタープラン」



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要① —計画・体制—

○青森市総合都市交通戦略（平成21年10月策定）

- ・市民の安全で円滑な交通の確保に関する各種整備の促進を目的とする
- ・公共交通体系の基本理念
⇒「コンパクトシティを支える公共交通の整備～人と環境に優しい公共環境の形成～」

○戦略の概要

- ・市民のみならず来街者にとっても便利なバスとするため「乗りやすい、わかりやすい」バス交通ネットワークへの再編
- ・都市構造（土地利用・人口分布）に対応したバス交通ネットワークの整備
- ・新幹線新青森駅や青い森鉄道駅との連携による公共交通ネットワークの形成
- ・持続可能な路線バス運営

○都市政策課

- ・平成26年度より交通政策課を併合して再編成
⇒都市政策の一環として交通政策を行うことを目的とする
- ・交通政策と土地利用とを連携させて、一体的に検討していきたい

○企業局交通部

- ・市長部局との間で事務系職員の人事異動があり、協議しやすい環境にある



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要② —バス路線の再構築—

○バス路線再編の必要性

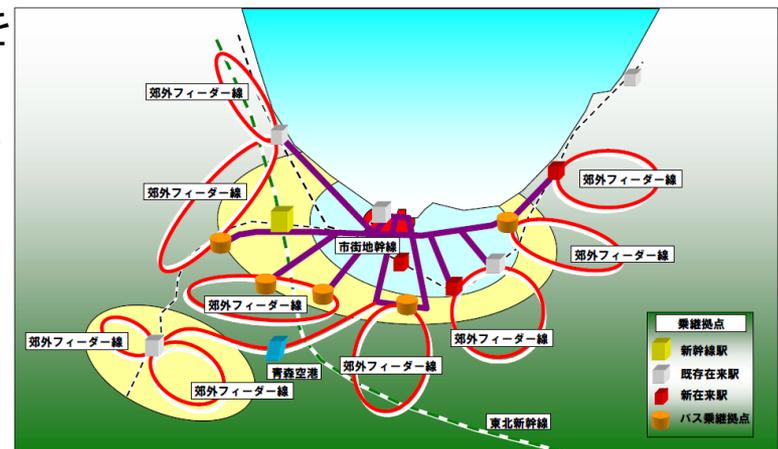
- ・国道等の放射軸に沿って分布する都市構造への対応
- ・シームレスで遅延の少ないバスネットワークの構築
- ・多様な利用者ニーズへの対応
- ・都市機能の集積する中心市街地への円滑な移動の確保

○路線を3区分に分類

- 骨格路線…………… 中心市街地を中心とする東西
南北方向の交通軸
- 幹線路線…………… 骨格路線を補完し市街地を
広域的にカバー
- フィーダー路線…………… 少ない需要にも対応できる
郊外路線

○運行方法の見直し

- ・利用者ニーズに対応
- ・赤字路線は青森市が受け入れし、
コミュニティバス等へ事業転換



< 青森市バス路線再編のイメージ >

出典：青森市提供資料



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要③－市民バスの実施－

○市民バスの概要

- ・市営バスの路線の休廃止を契機に、地域内のフィーダーバスとして平成24年10月から「市民バス」を実施

○運営体制の変更

- ・これまでは、青森市が市営バスの運営補助を行うことで生活交通を維持
- ・これからは、地域が運行計画を策定し、青森市と協働による生活交通の確保
⇒バスの運営委託は青森市が行う
⇒地域住民は利用促進や運行計画の策定を行う

○住民懇話会

- ・地域住民と青森市のワークショップを開催し、ルートやダイヤ等を検討した
- ・アンケート調査や乗降調査を実施し、ニーズの分析等を行った
- ・住民懇話会での決定後、6か月程度の社会実験を経て本格運行に移行
- ・現在も年1回開催し、見直しを図る
⇒便数も少ないため、なかなか議論にならない



<「青森市民バス」の運営体制の概要>

出典：青森市提供資料



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要④ —市民バスの成果・課題—

○利用者数の減少

- ・導入から2～3年経過したため検証をしたところ、利用者数が減少した
- ・理由として、サービスの低下が考えれる
 - ⇒廃止路線の代替ではなく、フィーダー路線になった
(目的地までの直通運行ではなく、乗継が生じる)
 - ⇒運行本数の減便
 - ⇒乗継の接続の悪さ(乗継への抵抗感) など

○課題

- ・ハブターミナルの充実強化を図る
 - ⇒青森駅を中心拠点としたい
- ・乗継移動を前提とした路線網への再編
 - ⇒これまで路線網については、大きな変更はなかった
- ・市営バスが路線網の骨格を担う
 - ⇒フィーダー部分は市民バスだけでなく、デマンドタクシーも検討する
- ・住民懇話会を、当初は住民との協働の場と位置づけていたが、運営していく過程で意見ヒアリングの場が変わった



その他ヒアリング結果(1)

○路線バスの利用促進における課題について

- ・これまでは、ほとんど利用促進の工夫をしてこなかった
 - ⇒路線図やマップの整備も充実していない
 - ⇒普段利用する住民にとっては、特に問題にならない
- ・今後は、路線の再編や利用促進のために、バスマップ作成など「わかりやすい」バス路線を目指す

○バス路線の再編について

- ・利便性が悪くなったことに対する不満が出てこない
 - ⇒路線バスを必要としない、代替手段がある市民が多いのだろう
 - ⇒交通戦略の目的のひとつに、環境配慮からの自動車依存の抑制があるため、路線バスの廃止の影響による自家用車への転換は望ましくない
- ・路線バスの公共交通利用圏域人口96%を維持したい

○市営バスについて

- ・赤字や一般会計の繰入が恒常化しているので、今後の運営をどのようにするか考えなければならない
 - ⇒黒字路線がある間でないとも民営化も難しい

○市内の鉄道について

- ・JR東日本のころに比べて、青い森鉄道になったことで協力しやすい環境にある



その他ヒアリング結果(2)

○コンパクトシティについて

- ・既存の都市のストックを維持・有効活用していく
- ・都市計画上でコントロールし、都市の拡大を防ぐ
⇒居住地区の縮小(シュリンク化)は検討していない
- ・人口減少が進んだ後は、居住誘導区域の設定等を検討する必要があるだろう
- ・郊外部には主に農業従事者が住んでおり、移住は難しい

○都市整備やまちづくりと関連した交通政策について

- ・「立地適正化計画」と調和した、「地域公共交通網形成計画」を策定することになっている

○組織や人材育成・専門性について

- ・青森市では専門性を活かした配置よりも、幅広く業務を経験できるように定期的に異動するようにしている
⇒青森県は専門性を高めるように特定の部署を巡るような異動
- ・関係部署の職員を集めた、まちづくりに関する研究会を検討している
⇒職員間で課題の共有を図りたい

○県との関係性について

- ・青森県では、市町村を横断する路線を支援している
⇒青森市には、他市へ運行する市営バスはないので補助金を受けていない



参考資料

- 青森市HP「青森市総合都市交通戦略」

<https://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?cd=3104>

- 青森市HP「市民バス」

<http://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?cd=16495>

- 青森市提供資料

- 青森市HP

